

## 令和4年度教職課程認定大学等実地視察について（案）

中央教育審議会初等中等教育分科会  
教 員 養 成 部 会

## 1. 実地視察の目的

教職課程認定大学等実地視察の目的は、教職課程認定大学実地視察規程（平成13年7月19日教員養成部会決定）及び指定教員養成機関実地視察規程（平成24年2月15日教員養成部会決定）に基づき、教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定を受けた大学及び教員養成機関としての指定を受けた機関について、認定及び指定時の課程の水準が維持され、その向上に努めているかどうかを確認する。

## 2. 概要

## (1) 総括的事項

- 令和4年度は、大学及び教員養成機関の計10大学等に対して、実地視察を行った。
- 全体として、教職課程の質を向上させるための積極的な取組を行っていることが確認できたものの、教職課程認定基準等の観点から教育課程及び教員組織等については是正すべき点のある大学等も見られた。

## (2) 個別的事項（個々の具体的評価、指摘・指導等）

## ①教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 概ねどの大学等も教員養成に対する理念・構想を具現化するための全学組織、教育課程、教員組織等が整備されていることが確認できたが、一部の大学等では理念等が明確に示されていなかったため、全学的な組織、教育課程や教員組織の充実を一層努めるよう求めた。

## ②教職課程、履修方法及びシラバスの状況

- 多くの大学等で授業科目について、教職課程コアカリキュラムに照らして、取り扱う内容が不十分であるものが散見されたため、適切な授業内容となるようシラバスの見直しを求めた。
- また、多くの大学等でFDが不十分だったため、教員の質向上に向けて、現代的な教育課題等教育に関する動き等を学内で共有できるようFDの充

実等を求めた。

### ③教育実習の取組状況

- 全ての大学等で、学生に対して丁寧な教育実習指導が実施されていることが確認できた。

### ④学生への教職指導の取組状況及び体制

- 概ねどの大学等でも教員を目指す学生のための組織で実習指導等の教職指導が行われていた。
- 大学等によって、以下のような教職指導に向けた適切な取組がなされていた。
  - ・チューター制度及び履修カルテの電子化により、学生の履修状況等に応じた細かい履修指導が行われていた。
  - ・教員就職特任指導員を活用した手厚い指導体制等が整備されていた。
  - ・学生が教員免許を取得しやすい環境整備（教職科目の配置の見直し等）の取組が見られた。

### ⑤教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校支援ボランティア活動等の活動状況）

- 概ねどの大学等でも教育実習等を通じて、近隣の教育委員会と積極的に交流していることが確認できた。
- さらに一部の大学では教育委員会と人事交流や意見交換を行う機会を設けており、綿密な連携が取られている大学もあった。

### ⑥施設・設備（図書を含む。）の状況

- 複数の大学等が教職関連に関する図書数が充分でなかったため、図書の充実を求めた。
- また、ICT 機器の整備が十分に整備されていない大学等も複数あり、学生が将来 ICT を活用して授業ができるよう環境整備を求めた。
- 一方で以下のように施設・設備が充実している大学等もあった。
  - ・学生の将来の学校現場での活動に資するため、理科室や家庭科室等の備品・物品等がよく整理整頓されており、学校における安全への配慮等、きめ細かな指導の工夫が見られた。
  - ・模擬保育室が設けられており、教育現場に近い環境で模擬授業の演習ができるよう整備されていた。

### ⑦その他特記事項

- 指定教員養成機関について、指定を受けている幼稚園教員・保育士養成

科の入学定員は50名であるが、過去にこれを大幅に上回る年度があったことや、近年においてもこれを相当数超えていることが確認された。学則上では、幼稚園教諭免許取得コースを定員50名と規定しているものの、生徒への実際の周知や指導がどのように行われているか判然としない点が見受けられた。指定を受けた定員数に見合う適切な規模で幼稚園教諭の養成を行うよう是正を求めた。

### 3. まとめ

- 各課程認定大学等においては、体系的に教育課程を編成し、教員免許状を取得しようとする者に対する教職指導の実施等を通じて、教職を志す学生が体系的・計画的に教職課程を履修することができるような取組が求められる。
- そのため、教職課程の運営や教職指導について、全学的に責任を持って行う体制の構築が不可欠であり、令和3年の教育職員免許法施行規則の改正により、複数の認定課程を有する大学はそれぞれの認定課程の円滑かつ効果的な実施を通じて、大学が定める教員の養成の目標を達成することができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えることとされた。これを踏まえ各大学等では全学的な連携や体制の更なる充実を進めて行くことが重要である。
- さらに、施行規則の改正においては、各大学は、認定課程の教育課程、教員組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表することとされている。また、令和4年12月に取りまとめられた中央教育審議会答申（「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～）においても、教職課程の不断の見直しについて言及されていることから、本部会での実地視察における指摘事項等も十分に踏まえた自己点検等を実施し、引き続き、教職課程の水準の維持・向上に努めることを期待する。

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		共栄大学（学部・学科等の課程）		設置者名	学校法人共栄学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
教育学部	教育学科	平成23年度	130人	幼一種免	平成23年度 (令和元年度)	114人	109人	5人	73人
				小一種免	平成23年度 (令和元年度)			109人	
入学定員合計			130人	合計		114人	109人	114人	73人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年10月17日（月）

実地視察大学：共栄大学

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等については、一部是正すべき点があるものの全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○ 「実践力」等を備えた教師の養成に対する理念・構想が明確化されており、それを具体化するための教職課程に関する全学的な組織、教育課程や教員組織が十分整備されている。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

- 「教科に関する専門的事項」に関する授業科目と「各教科の指導法」に関する授業科目との線引きが曖昧で、「各教科の指導法」で扱うべき内容が「教科に関する専門的事項」で取り扱われている授業科目が散見された。それぞれ区別を明確にした上で、「教科に関する専門的事項」に関する授業科目は学生の知識を高めるものに、「各教科の指導法」に関する授業科目は教職課程コアカリキュラムを踏まえたものとなるよう検討すること。
- 「各教科の指導法」の授業科目のシラバスにおいて、模擬授業を取り扱っていることが明確でないものが見られた。教職課程コアカリキュラムを踏まえ、確実に取り扱うよう検討すること。
- 面接指導や、教育課程外で特別な講座を設けるなど、学生への手厚い支援は評価できる一方、教員の負担になっている可能性もあり、大学として教員の研究活動に十分な支援体制が整っているか判然としなかった。今後はFD研修等による教員の活動支援や研究時間の確保について検討することが望ましい。

## 3. 教育実習の取組状況

○実習中は教員が実習校に訪問し学生を指導しており、丁寧な指導が行われている。また、教育実習に向け1・2年次で「学校ふれあい体験」や「学校教育研修」といった授業科目を開講しており、学年進行に応じて教育現場に触れる機会を十分に設けており、学生が体験的理解を深めていることに寄与している。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 「教育学部ラーニング・ラボ」では教員採用試験に向けた面接や論文の指導だけでなく、通常の授業科目における相談やサポートなど4年間を通じて学生の支援を行っている。また、「教職アカデミー」等を開講しており、学生の学力向上に寄与している。
- ピアノや模擬授業の練習ができるよう、音楽室や理科室を放課後に開放することで、学生の自己研鑽を促している。

#### 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 教育委員会等と教育実習等連絡協議会で意見交換を行っており、教育実習や学校体験活動に関する要望を把握している。その要望を踏まえ学生指導の参考にするなど、改善を図っていることが確認できた。

#### 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 模擬保育室が設けられており、教育現場に近い環境で模擬授業の演習ができるよう整備されている点は評価できる。
- 学生の将来の学校現場での活動に資するため、理科室や家庭科室等の備品・物品等がよく整理整頓されており、学校における安全への配慮等、きめ細かな指導の工夫が見られた。
- ICTに関する取り扱いが学内で進んでいるか判然としなかった。ICTを活用した授業の充実を検討することが望ましい。学生が将来ICTを活用して授業ができるよう、例えばデジタル教科書等の活用も検討すること。
- 蔵書について、指導法に関する図書は多数見られたが、教科専門に関する図書の充実を検討すること。

#### 7. その他特記事項

- 教育現場の実情を踏まえた学生指導をしている点は評価できる。今後も継続して取り組んでいただきつつ、新たな教育課題に対応できる教員を養成できるよう検討していただきたい。

# 東九州短期大学

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		東九州短期大学（学部・学科等の課程）		設置者名		学校法人 扇城学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
	幼児教育学科	昭和43年度	40人	幼二種免	令和元年度	19人	17人	17人	8人	
入学定員合計			40人	合計		19人	17人	17人	8人	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>									

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年10月24日（月）

実地視察大学：東九州短期大学

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教職課程の目標に「専門分野の幅広い知識と実践力」を備えた教師の育成を挙げているが、その目標を明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めてもらいたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○教育実習に力を入れて取り組んでいることは評価できる。一方で、座学の授業科目では、教育職員免許法施行規則上のどの事項（領域に関する専門的事項又は保育内容の指導法）に関する授業科目が必ずしも明確といえず、学生がそれらの科目ごとの趣旨を理解し体系的な学びができていないのか判然としない印象であった。教職課程における授業科目の位置づけを学生が十分に理解し、主体的に学ぶことができるような授業作りを検討すること。また、これを実現するために、教員のFD研修等を通じ、現代的な教育課題や指導法等についても自己研鑽に努めていただくとともに、授業評価アンケートを活用するなどして、教員養成の水準向上を図っていただきたい。

○採用時に教員の研究業績を審査しているとのことであるが、授業科目を指導する際に期待される専門的知識が、研究業績等を踏まえると充分であるか判然としない教員が散見された。採用時における学内の審査のあり方についても検討することが望ましい。

○研究業績等が比較的多い一部の教員に多くの授業科目の担当が集中しており、教員間で負担が偏っているように見受けられた。研究業績等が比較的少ない教員に対して、今後研究業績等を積むことができるよう、学内の支援体制を厚くすることが望ましい。

## 3. 教育実習の取組状況

○学生の教育実習の様子を録画し事後指導において活用するなど、教育実習による学びが充実するよう取り組んでいる点は評価できる。

○教育実習のほか、プレ実習やボランティアサークルに参加する学生のために交通費



の一部を補助するなど、学生が教育現場を多く経験できるための支援も充実している。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○実習サポートルームについて、学生がより活用しやすいように、データの管理体制や指導教員の常駐等について検討することが望ましい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会及び公立幼稚園の園長や会長と教育実習の内容等についてより協議の場を設けており、教育委員会等と協働していることが分かった。

○プレ実習やボランティアサークルを通じて地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる点は評価できる。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○模擬保育室が設けられており、教育現場に近い環境で模擬授業の演習ができるよう整備されている点は評価できる。

○図書館の一層の充実のため、図書のための予算の拡充を検討すること。特に、幼児教育関連だけでなく教職関連全般の図書の充実を図ること。

7. その他特記事項

○学生が教育実習や学生ボランティアを通じて、教育現場に触れる機会を多く提供している点は評価できる。今後も継続して取り組んでいただきつつ、教員組織の質向上を図っていくことで、新たな教育課題に対応できる教員を養成できるよう検討していただきたい。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		城西大学（学部・学科等の課程）		設置者名	学校法人 城西大学				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
経済学部	経済学科	昭和40年度	300人	中一種免（社会）	平成12年度	269人	3人	1人	0人
				高一種免（公民）	平成12年度			2人	
現代政策学部	社会経済システム学科	平成18年度	250人	中一種免（社会）	平成19年度	252人	5人	4人	1人
				高一種免（公民）	平成19年度			5人	
経営学部	マネジメント総合学科	平成16年度	500人	中一種免（社会）	平成16年度	488人	24人	8人	3人
				高一種免（公民）	平成16年度			8人	
				高一種免（情報）	平成16年度			3人	
				高一種免（商業）	平成16年度			11人	
理学部	数学科	昭和40年度	120人	中一種免（数学）	平成12年度	110人	49人	45人	21人
				高一種免（数学）	平成12年度			49人	
				高一種免（情報）	平成18年度			12人	
	化学科	昭和40年度	90人	中一種免（理科）	平成12年度	74人	10人	10人	5人
				高一種免（理科）	平成12年度			10人	
薬学部	薬科学科	平成18年度	50人	中一種免（理科）	平成18年度	49人	0人	0人	0人
				高一種免（理科）	平成18年度			0人	
	医療栄養学科	平成13年度	100人	栄教一種免	平成17年度	76人	0人	0人	0人
入学定員合計			1,410人	合計		1,318人	91人	168人	30人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員を記載してください。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数を記載してください。</li> </ul>								

大学名	城西大学大学院（研究科・専攻等の課程）			設置者名	学校法人 城西大学				
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
経済学研究科	経済政策専攻	昭和53年度	10人	中専免(社会)	平成2年度	4人	0人	0人	0人
				高専免(公民)	平成6年度			0人	
経営学研究科	ビジネス・イノベーション専攻	平成15年度	25人	中専免(社会)	平成15年度	28人	0人	0人	0人
				高専免(公民)	平成15年度			0人	
理学研究科	数学専攻	平成10年度	10人	中専免(数学)	平成10年度	人	0人	0人	0人
				高専免(数学)	平成10年度			0人	
	物質科学専攻	平成16年度	12人	中専免(理科)	平成16年度	2人	1人	1人	1人
				高専免(理科)	平成16年度			1人	
入学定員合計			57人	合計		34人	1人	2人	1人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究科・専攻等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員を記載してください。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各専攻等の実人数、「個別」欄は各専攻等内の教職課程ごとの人数を記載してください。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年11月2日（水）

実地視察大学：城西大学

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教育活動の目標に「学問による人間形成」を挙げているが、その目標を明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めてもらいたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

- シラバスにおいて、教職課程コアカリキュラムを満たしているかが判然としないものが見受けられた。実際には必要事項を扱っていることが確認できたが、シラバスの内容に関して、全学的なチェック体制を確立することが望ましい。
- 授業科目を指導する際に期待される専門的知識が、研究業績等を踏まえると充分であるか判然としない教員が散見された。採用後も研究業績を積むよう、大学として支援していただきたい。
- 実務家教員を多く採用していることは有効と思われるが、一方で、授業科目の特性に応じて研究者教員とのバランスも重要なため、計画的な人事配置に努めてもらいたい。
- 各教科の指導法等を担当する教員への支援は行われているが、全学的なFD研修が実施されていない。教員養成や教職課程の充実に向けたテーマのFD研修を実施できるよう注力願いたい。

## 3. 教育実習の取組状況

○母校実習を中心に実施しているが、すべての実習先に教員が訪問しており、丁寧な指導が行われていることが確認できた。引き続き丁寧な指導を継続していただくとともに、近隣の教育委員会との良好な関係を活かし、将来的には地域の公立学校でも教育実習を実施できるよう、実習先を拡大することも検討願いたい。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○教員免許取得者及び教員就職者が徐々に増加しており、学生が教職科目を履修しやすいよう時間割の配置を見直す等の取組が見られる。引き続き学生が教員免許を取得しやすい環境の整備に努めてもらいたい。

## 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 近隣の教育委員会が取り組んでいる ICT 教育の現状や、導入しているシステム等の状況をよく把握した上で、それに対応した教員養成を実施していることが確認できた。
- 「スチューデント・インターンシップ」及び学習支援ボランティアは有効な取組みであると評価できる。学生が学校現場を体験するだけでなく、現場の教員と連携することにより、充実した機会として活用してほしい。

## 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職課程センターに保管されている図書について、特定の出版社の教科書しか用意されていない教科が見られた。学生が教科書会社による違い等を比較することができるよう、複数の出版社の教科書を用意することが望ましいため、更なる充実を検討願いたい。

## 7. その他特記事項

- 教職課程センターを核として、丁寧な教員養成が行われているように思われる。今後もさらなる充実に努めていただきたい。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		愛知教育大学（学部・学科等の課程）		設置者名	国立大学法人愛知教育大学				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
学校教員養成課程		令和3年度	729人	幼一種免	令和3年度	-	-	-	-
				小一種免	令和3年度			-	
				中一種免（国語）	令和3年度			-	
				中一種免（社会）	令和3年度			-	
				中一種免（数学）	令和3年度			-	
				中一種免（理科）	令和3年度			-	
				中一種免（音楽）	令和3年度			-	
				中一種免（美術）	令和3年度			-	
				中一種免（保健体育）	令和3年度			-	
				中一種免（保健）	令和3年度			-	
				中一種免（技術）	令和3年度			-	
				中一種免（家庭）	令和3年度			-	
				中一種免（職業指導）	令和3年度			-	
				中一種免（英語）	令和3年度			-	
				高一種免（国語）	令和3年度			-	
				高一種免（地理歴史）	令和3年度			-	
				高一種免（公民）	令和3年度			-	
				高一種免（数学）	令和3年度			-	
				高一種免（理科）	令和3年度			-	
				高一種免（音楽）	令和3年度			-	
				高一種免（美術）	令和3年度			-	
				高一種免（書道）	令和3年度			-	
				高一種免（保健体育）	令和3年度			-	
				高一種免（保健）	令和3年度			-	
				高一種免（家庭）	令和3年度			-	
				高一種免（情報）	令和3年度			-	
				高一種免（工業）	令和3年度			-	
高一種免（職業指導）	令和3年度	-							
高一種免（英語）	令和3年度	-							
特支一種免（視・聴・知・肢・病）	令和3年度	-							
養教一種免	令和3年度	-							

初等教育教員 養成課程	平成12年度	-	幼一種免	令和元年度	457人	451人	24人	314人
			小一種免	令和元年度			451人	
			中一種免(国語)	令和元年度			51人	
			中一種免(社会)	令和元年度			72人	
			中一種免(数学)	令和元年度			53人	
			中一種免(理科)	令和元年度			65人	
			中一種免(音楽)	令和元年度			24人	
			中一種免(美術)	令和元年度			26人	
			中一種免(保健体育)	令和元年度			40人	
			中一種免(保健)	令和元年度			0人	
			中一種免(技術)	令和元年度			0人	
			中一種免(家庭)	令和元年度			32人	
			中一種免(職業指導)	令和元年度			0人	
			中一種免(英語)	令和元年度			16人	
			高一種免(国語)	令和元年度			42人	
			高一種免(地理歴史)	令和元年度			30人	
			高一種免(公民)	令和元年度			20人	
			高一種免(数学)	令和元年度			50人	
			高一種免(理科)	令和元年度			48人	
			高一種免(音楽)	令和元年度			21人	
			高一種免(美術)	令和元年度			17人	
			高一種免(書道)	令和元年度			11人	
			高一種免(保健体育)	令和元年度			32人	
			高一種免(保健)	令和元年度			0人	
			高一種免(家庭)	令和元年度			22人	
			高一種免(情報)	令和元年度			0人	
			高一種免(工業)	令和元年度			0人	
			高一種免(職業指導)	令和元年度			0人	
			高一種免(英語)	令和元年度			13人	
			特支一種免(視・聴・知・肢・病)	平成27年度			0人	
			養教一種免	令和元年度			0人	
			中等教育教員 養成課程	平成12年度			-	
小一種免	令和元年度	183人						
中一種免(国語)	令和元年度	24人						
中一種免(社会)	令和元年度	23人						
中一種免(数学)	令和元年度	51人						
中一種免(理科)	令和元年度	54人						
中一種免(音楽)	令和元年度	4人						
中一種免(美術)	令和元年度	6人						
中一種免(保健体育)	令和元年度	23人						
中一種免(保健)	令和元年度	0人						
中一種免(技術)	令和元年度	12人						
中一種免(家庭)	令和元年度	4人						
中一種免(職業指導)	令和元年度	0人						
中一種免(英語)	令和元年度	16人						
高一種免(国語)	令和元年度	24人						
高一種免(地理歴史)	令和元年度	11人						
高一種免(公民)	令和元年度	10人						
高一種免(数学)	令和元年度	49人						
高一種免(理科)	令和元年度	53人						
高一種免(音楽)	令和元年度	4人						
高一種免(美術)	令和元年度	6人						

教育学部

高一種免(書道)	令和元年度	5人
高一種免(保健体育)	令和元年度	22人
高一種免(保健)	令和元年度	0人
高一種免(家庭)	令和元年度	4人
高一種免(情報)	令和元年度	11人
高一種免(工業)	令和元年度	5人
高一種免(職業指導)	令和元年度	0人
高一種免(英語)	令和元年度	16人
特支一種免(視・聴・知・肢・病)	平成27年度	0人
養教一種免	令和元年度	0人

特別支援学校  
教員養成課程

平成19年度

幼一種免	令和元年度	0人
小一種免	令和元年度	31人
中一種免(国語)	令和元年度	0人
中一種免(社会)	令和元年度	0人
中一種免(数学)	令和元年度	0人
中一種免(理科)	令和元年度	0人
中一種免(音楽)	令和元年度	0人
中一種免(美術)	令和元年度	0人
中一種免(保健体育)	令和元年度	0人
中一種免(保健)	令和元年度	0人
中一種免(技術)	令和元年度	0人
中一種免(家庭)	令和元年度	0人
中一種免(職業指導)	令和元年度	0人
中一種免(英語)	令和元年度	0人
高一種免(国語)	令和元年度	0人
高一種免(地理歴史)	令和元年度	0人
高一種免(公民)	令和元年度	0人
高一種免(数学)	令和元年度	0人
高一種免(理科)	令和元年度	0人
高一種免(音楽)	令和元年度	0人
高一種免(美術)	令和元年度	0人
高一種免(書道)	令和元年度	0人
高一種免(保健体育)	令和元年度	0人
高一種免(保健)	令和元年度	0人
高一種免(家庭)	令和元年度	0人
高一種免(情報)	令和元年度	0人
高一種免(工業)	令和元年度	0人
高一種免(職業指導)	令和元年度	0人
高一種免(英語)	令和元年度	0人
特支一種免(視・聴・知・肢・病)	平成27年度	31人
養教一種免	令和元年度	0人

33人

32人

23人

幼一種免	令和元年度	0人
小一種免	令和元年度	0人
中一種免(国語)	令和元年度	0人
中一種免(社会)	令和元年度	0人
中一種免(数学)	令和元年度	0人
中一種免(理科)	令和元年度	0人
中一種免(音楽)	令和元年度	0人
中一種免(美術)	令和元年度	0人
中一種免(保健体育)	令和元年度	0人
中一種免(保健)	令和元年度	17人
中一種免(技術)	令和元年度	0人



養護教諭養成課程	平成12年度	-	中一種免(家庭)	令和元年度	42人	42人	0人	33人
			中一種免(職業指導)	令和元年度			0人	
			中一種免(英語)	令和元年度			0人	
			高一種免(国語)	令和元年度			0人	
			高一種免(地理歴史)	令和元年度			0人	
			高一種免(公民)	令和元年度			0人	
			高一種免(数学)	令和元年度			0人	
			高一種免(理科)	令和元年度			0人	
			高一種免(音楽)	令和元年度			0人	
			高一種免(美術)	令和元年度			0人	
			高一種免(書道)	令和元年度			0人	
			高一種免(保健体育)	令和元年度			0人	
			高一種免(保健)	令和元年度			16人	
			高一種免(家庭)	令和元年度			0人	
			高一種免(情報)	令和元年度			0人	
			高一種免(工業)	令和元年度			0人	
			高一種免(職業指導)	令和元年度			0人	
			高一種免(英語)	令和元年度			0人	
			特支一種免(視・聴・知・肢・病)	平成27年度			0人	
			養教一種免	令和元年度			42人	
			現代学芸課程	平成19年度			-	
中一種免(社会)	平成19年度	0人						
中一種免(理科)	平成19年度	0人						
中一種免(美術)	平成19年度	0人						
中一種免(英語)	平成19年度	0人						
高一種免(国語)	平成19年度	0人						
高一種免(公民)	平成19年度	0人						
高一種免(理科)	平成19年度	1人						
高一種免(美術)	平成19年度	0人						
高一種免(情報)	平成19年度	0人						
高一種免(福祉)	平成19年度	0人						
高一種免(英語)	平成19年度	0人						
入学定員合計		729人			合計			757人

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> <li>・初等教育教員養成課程、中等教育教員養成課程、特別支援学校教員養成課程、養護教諭養成課程は、令和3年度入学生から募集停止。取下げ届提出済み。</li> <li>・現代学芸課程は、平成29年度入学生から募集停止。取下げ届提出済み。</li> </ul>
----	--

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	愛知教育大学（大学専攻科の課程）			設置者名	国立大学法人愛知教育大学				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
特別支援教育特別専攻科	特別支援教育専攻	昭和49年度	30人	特支一種免（知・肢・病）	平成19年度	32人	32人	32人	30人
入学定員合計			30人	合計		32人	32人	32人	30人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> <li>・特別支援教育特別専攻科は、平成19年度に特殊教育特別専攻科から改称</li> </ul>								

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		愛知教育大学大学（研究科・専攻等の課程）		設置者名	国立大学法人愛知教育大学				
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	修了者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
教育実践高度化専攻	令和2年度	120人	幼専免	令和2年度	67人	47人	3人	64人	
			小専免	令和2年度					22人
			中専免（国語）	令和2年度					3人
			中専免（社会）	令和2年度					6人
			中専免（数学）	令和2年度					6人
			中専免（理科）	令和2年度					7人
			中専免（音楽）	令和2年度					5人
			中専免（美術）	令和2年度					1人
			中専免（保健体育）	令和2年度					6人
			中専免（保健）	令和2年度					1人
			中専免（技術）	令和2年度					0人
			中専免（家庭）	令和2年度					0人
			中専免（職業）	令和2年度					0人
			中専免（職業指導）	令和2年度					0人
			中専免（英語）	令和2年度					2人
			中専免（ドイツ語）	令和2年度					0人
			中専免（フランス語）	令和2年度					0人
			中専免（宗教）	令和2年度					0人
			高専免（国語）	令和2年度					3人
			高専免（地理歴史）	令和2年度					5人
			高専免（公民）	令和2年度					4人
			高専免（数学）	令和2年度					6人
			高専免（理科）	令和2年度					7人
			高専免（音楽）	令和2年度					4人
			高専免（美術）	令和2年度					1人
			高専免（工芸）	令和2年度					0人
			高専免（書道）	令和2年度					0人
			高専免（保健体育）	令和2年度					6人
			高専免（保健）	令和2年度					1人
			高専免（看護）	令和2年度					0人
			高専免（家庭）	令和2年度					0人
			高専免（工業）	令和2年度					0人
			高専免（職業指導）	令和2年度					0人
高専免（英語）	令和2年度	2人							
高専免（ドイツ語）	令和2年度	0人							
高専免（フランス語）	令和2年度	0人							
高専免（宗教）	令和2年度	0人							
高専免（情報）	令和2年度	1人							
高専免（農業）	令和2年度	0人							

教育学研究科

教育科学研究科	発達教育科学専攻	平成20年度	-	高専免(商業)	令和2年度	7人	1人	0人	6人
				高専免(水産)	令和2年度			0人	
				高専免(福祉)	令和2年度			0人	
				高専免(商船)	令和2年度			0人	
				養教専免	令和2年度			4人	
				特支専免(視・聴・知・肢・病)	令和2年度			3人	
				幼専免	令和元年度			0人	
				小専免	令和元年度			0人	
				中専免(国語)	令和元年度			0人	
				中専免(社会)	令和元年度			0人	
				中専免(数学)	令和元年度			0人	
				中専免(理科)	令和元年度			0人	
				中専免(音楽)	令和元年度			1人	
				中専免(美術)	令和元年度			0人	
				中専免(保健体育)	令和元年度			0人	
				中専免(保健)	令和元年度			0人	
				中専免(技術)	令和元年度			0人	
				中専免(家庭)	令和元年度			0人	
				中専免(英語)	令和元年度			0人	
				高専免(国語)	令和元年度			0人	
				高専免(地理歴史)	令和元年度			0人	
				高専免(公民)	令和元年度			0人	
				高専免(数学)	令和元年度			0人	
				高専免(理科)	令和元年度			0人	
				高専免(音楽)	令和元年度			1人	
				高専免(美術)	令和元年度			0人	
				高専免(書道)	令和元年度			0人	
				高専免(保健体育)	令和元年度			0人	
				高専免(保健)	令和元年度			0人	
				高専免(家庭)	令和元年度			0人	
				高専免(工業)	令和元年度			0人	
				高専免(英語)	令和元年度			0人	
				高専免(情報)	令和元年度			0人	
高専免(福祉)	令和元年度	0人							
養教専免	令和元年度	0人							
特別支援教育科学専攻	昭和54年度	-	特支専免(視・聴・知・肢・病)	平成19年度	1人	0人	0人	1人	
養護教育専攻	平成5年度	-	中専免(保健)	令和元年度	1人	0人	0人	0人	
			高専免(保健)	令和元年度			0人		
			養教専免	令和元年度			0人		
				幼専免	令和元年度	7人	1人	0人	6人
				小専免	令和元年度			0人	
				中専免(国語)	令和元年度			0人	
				中専免(社会)	令和元年度			0人	
				中専免(数学)	令和元年度			0人	
				中専免(理科)	令和元年度			0人	
				中専免(音楽)	令和元年度			0人	
				中専免(美術)	令和元年度			0人	
				中専免(保健体育)	令和元年度			0人	
				中専免(保健)	令和元年度			0人	
				中専免(技術)	令和元年度			0人	

	学校教育臨床 専攻	平成12年度	-	中専免（家庭）	令和元年度	1人	0人	0人	0人			
				中専免（英語）	令和元年度			0人				
				高専免（国語）	令和元年度			0人				
			高専免（地理歴史）	令和元年度	0人							
			高専免（公民）	令和元年度	0人							
			高専免（数学）	令和元年度	0人							
			高専免（理科）	令和元年度	0人							
			高専免（音楽）	令和元年度	0人							
			高専免（美術）	令和元年度	0人							
			高専免（書道）	令和元年度	0人							
			高専免（保健体育）	令和元年度	0人							
			高専免（保健）	令和元年度	0人							
			高専免（家庭）	令和元年度	0人							
			高専免（工業）	令和元年度	0人							
			高専免（英語）	令和元年度	0人							
			高専免（情報）	令和元年度	0人							
			高専免（福祉）	令和元年度	0人							
			養教専免	令和元年度	0人							
	理科教育専攻	昭和55年度	-	小専免	令和元年度			2人		0人	0人	1人
				中専免（理科）	令和元年度						0人	
				高専免（理科）	令和元年度	0人						
	芸術教育専攻	昭和53年度	-	幼専免	令和元年度	1人	1人	0人	1人			
								小専免		令和元年度	0人	
								中専免（音楽）		令和元年度	1人	
								中専免（美術）		令和元年度	0人	
								高専免（音楽）		令和元年度	1人	
								高専免（美術）		令和元年度	0人	
教育実践 研究科	教職実践専攻	平成20年度	-	幼専免	令和元年度	8人	8人	1人	7人			
										小専免	令和元年度	1人
										中専免（国語）	令和元年度	2人
										中専免（社会）	令和元年度	0人
										中専免（数学）	令和元年度	2人
										中専免（理科）	令和元年度	0人
										中専免（音楽）	令和元年度	0人
										中専免（美術）	令和元年度	0人
										中専免（保健体育）	令和元年度	1人
										中専免（保健）	令和元年度	0人
										中専免（技術）	令和元年度	0人
										中専免（家庭）	令和元年度	0人
										中専免（職業）	令和元年度	0人
										中専免（職業指導）	令和元年度	0人
										中専免（英語）	令和元年度	2人
										中専免（ドイツ語）	令和元年度	0人
										中専免（フランス語）	令和元年度	0人
										中専免（宗教）	令和元年度	0人
										高専免（国語）	令和元年度	2人
										高専免（地理歴史）	令和元年度	0人
										高専免（公民）	令和元年度	0人
										高専免（数学）	令和元年度	2人
										高専免（理科）	令和元年度	0人
										高専免（音楽）	令和元年度	0人
										高専免（美術）	令和元年度	0人

			高専免（工芸）	令和元年度			0人	
			高専免（書道）	令和元年度			0人	
			高専免（保健体育）	令和元年度			1人	
			高専免（保健）	令和元年度			0人	
			高専免（看護）	令和元年度			0人	
			高専免（家庭）	令和元年度			0人	
			高専免（工業）	令和元年度			0人	
			高専免（職業指導）	令和元年度			0人	
			高専免（英語）	令和元年度			2人	
			高専免（ドイツ語）	令和元年度			0人	
			高専免（フランス語）	令和元年度			0人	
			高専免（宗教）	令和元年度			0人	
			高専免（情報）	令和元年度			0人	
			高専免（農業）	令和元年度			0人	
			高専免（商業）	令和元年度			0人	
			高専免（水産）	令和元年度			0人	
			高専免（福祉）	令和元年度			0人	
			高専免（商船）	令和元年度			0人	
			養教専免	令和元年度			0人	
	入学定員合計	120人		合計	88人	57人	129人	80人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> <li>・特別支援教育科学専攻は、平成20年度に障害児教育専攻から改称</li> </ul>							

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年11月22日（火）

実地視察大学：愛知教育大学

## 【全般的事項】

○教職課程について、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○ 教員養成に対する理念・構想を明確にしており、それらを具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織を十分に整備している。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○ 教育実践教養科目を大学が独自に設定する科目として開設し、現代的な教育課題について学生に指導している点が評価できる。地域的な課題に対応した科目も設定している。一方、大学が目指す教師像と授業科目との関係性を一層明確化した上で、教職課程の内容について、自己点検評価等を通じ、不断に見直していくことを期待する。

○ 少人数クラスで効果的な授業を実施している点は評価できる。今後は、教職課程全体を通じ、学生の「学習観・授業観」の転換を図ることができるよう、努めていただきたい。

○ 教職課程の自己点検評価を進めるにあたり、広域拠点大学として貴学を含め教員養成系大学・学部を取り巻く状況等も認識した上で、学内組織一丸となって改革に取り組むよう、努めていただきたい。

## 3. 教育実習の取組状況

○ 県内の公立小中学校と密接に連携している点は評価できる。

○ 教育実習に先立って必修としている学校体験活動についても学生の理解が深められるように丁寧に対応しており、評価できる。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○ 配慮が必要な学生が円滑に実習を実施できるよう丁寧に対応している点は評価できる。

○ 入学試験に教職に関する小論文を課し、教員志望度の高い学生を入学させる取組や、教員就職特任指導員を活用した手厚い指導体制等が評価できる。

○ 高等学校教育専攻を設置したが、高等学校教員の競争率の高さから、教師以外の道を選ぶ学生が増加することが予想されるため、引き続き高い教員就職率を維持で

きるよう、学生指導等に努めてもらいたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 密接な連携により、教育委員会のニーズを取り入れた教員養成を実施している。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 図書、デジタル教材、ICT 機器等の整備が充実している。
- こらぼ（教職キャリアセンターICT 活用等普及推進統括部門により開設）を拠点とし、学生への支援及び ICT 機器の貸出についても十分対応されている。

7. その他特記事項

- 令和3年度教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業の成果を全国展開しようとする姿勢及び学生が「学生 ICT 支援員」として能動的に活動している点も大きく評価できる。



# 草苑保育専門学校

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		草苑保育専門学校（保育専門課程）		設置者名		学校法人草苑学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
	幼稚園教員・保育士養成科	昭和29年度	50人	幼二種免	昭和29年度	77人	73人	73人	16人
入学定員合計			50人	合計		77人	73人	73人	16人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年11月28日（月）

実地視察大学：草苑保育専門学校

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等について、教員養成機関指定基準等と照らし合わせ、是正すべき点があるので今後の対応について速やかに検討していただきたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教員養成に対する理念は示されているが、教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織がその理念を具現化するものとなっているかが判然としなかった。それらが充実したものとなるよう、一層努めていただきたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○学内で育てたい教師像を共有し、教職課程の科目の授業内容が教職課程コアカリキュラムを満たしているか確認できるよう、教員個人に授業内容やシラバスの作成を委ねるのではなく、学校として確認・チェックする組織や体制を設けるよう検討すること。

○保育内容の指導法と領域に関する専門的事項は、科目の目的や扱う内容が異なるので、それぞれに応じて、生徒の知識が深まり、技術を獲得できるように授業内容や指導方法の改善すること。

○教員組織に関連し、学内の紀要について確認したところ、執筆者によって論文の質に差があることが見受けられたため、学内の査読体制の充実や編集方針等を検討することが望ましい。また、保育の内容について、最新の情報が学内で学べるようFDの充実を図ること。

## 3. 教育実習の取組状況

○実習校の選定・調整を学校が行っていることや実習校の巡回指導等を丁寧に行っている点は評価できる。また、教育実習の成績評価について、学校が責任をもって行っていることが確認できた。

## 4. 生徒への教職指導の取組状況及び体制

○教育実習先についての生徒の記録を蓄積しており、これから実習に行く生徒が自由に閲覧できるようにするなど、工夫が見られた。

○卒業生の就職先を訪問しアフターフォローとして声を聞くことや、卒業生と生徒の

交流によりモチベーション向上となるよう取り組んでいる点など、様々な工夫をしていることが確認できた。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○指導大学との連携状況が判然としなかった。年2回の定例教職員協議会だけでなく、普段から密に連携できるような体制やシステムの整備を検討することにより、連携の充実を図ることが望ましい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○生徒が集中できる環境で授業を受けられるようピアノ実習室の防音設備を検討することが望ましい。

○生徒が図書館を活用できるように自習や読書のための十分なスペースが設けられることが望ましい。その際、生徒が図書館に関心が向くように、図書館の書籍の紹介等、工夫することが望ましい。

○図書の種類・冊数の充実や新たな書籍の購入等、充実を図ること。

7. その他特記事項

○指定教員養成機関として指定を受けている幼稚園教員・保育士養成科の入学定員は50名であるが、過去にこれを大幅に上回る年度があったことや、近年においてもこれを相当数超えていることが確認された。学則上では、幼稚園教諭免許取得コースを定員50名と規定しているものの、生徒への実際の周知や指導がどのように行われているか判然としない点が見受けられた。指定を受けた定員数に見合う適切な規模で幼稚園教諭の養成を行うよう是正すべきである。

○教員養成機関としての質を担保するため、教育課程や教員組織の在り方について指導大学の指導の下、内容や体制の充実を図っていくこと。また、学内のFD研修への協力など、指導大学の知見を生かせるような連携の方策を検討すること。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		甲南大学（学部・学科等の課程）		設置者名	学校法人 甲南学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
文学部	日本語日本文学科	昭和32年度	70人	中一種免（国語）	令和元年度	72人	10人	10人	8人
				高一種免（国語）	令和元年度			10人	
	英語英米文学科	昭和32年度	90人	中一種免（英語）	令和元年度	97人	7人	7人	3人
				高一種免（英語）	令和元年度			7人	
	社会学科	昭和32年度	90人	中一種免（社会）	令和元年度	97人	3人	1人	1人
				高一種免（公民）	令和元年度			3人	
	人間科学科	平成8年度	95人	中一種免（社会）	令和元年度	97人	4人	4人	4人
				高一種免（地理歴史）	令和元年度			4人	
				高一種免（公民）	令和元年度			4人	
	歴史文化学科	平成13年度	60人	中一種免（社会）	令和元年度	63人	8人	8人	6人
高一種免（地理歴史）				令和元年度	8人				
理工学部	物理学科	平成13年度	50人	中一種免（理科）	令和元年度	45人	6人	6人	3人
				高一種免（理科）	令和元年度			6人	
	生物学科	平成13年度	45人	中一種免（理科）	令和元年度	42人	5人	5人	3人
				高一種免（理科）	令和元年度			5人	
	機能分子化学科	平成13年度	60人	中一種免（理科）	令和元年度	66人	5人	5人	1人
				高一種免（理科）	令和元年度			5人	
経済学部	経済学科	昭和27年度	345人	中一種免（社会）	令和元年度	386人	2人	1人	1人
				高一種免（地理歴史）	令和元年度			2人	
				高一種免（公民）	令和元年度			1人	
法学部	法学科	昭和35年度	345人	中一種免（社会）	令和元年度	396人	6人	6人	1人
				高一種免（地理歴史）	令和元年度			6人	
				高一種免（公民）	令和元年度			6人	
経営学部	経営学科	昭和35年度	345人	中一種免（社会）	令和元年度	407人	2人	1人	0人
				高一種免（公民）	令和元年度			1人	
				高一種免（商業）	令和元年度			1人	
知能情報学部	知能情報学科	平成20年度	120人	中一種免（数学）	令和元年度	127人	5人	4人	3人
				高一種免（数学）	令和元年度			4人	
				高一種免（情報）	令和元年度			1人	
入学定員合計			1,715人	合計		1,895人	63人	132人	34人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている専攻等の概要

大学名		甲南大学（研究科・専攻等の課程）		設置者名	学校法人 甲南学園				
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	修了者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
人文科学研究科	日本語日本文学専攻	昭和39年度	5人	中専免（国語）	令和元年度	0人	0人	0人	0人
				高専免（国語）	令和元年度			0人	
	英語英米文学専攻	昭和39年度	6人	中専免（英語）	令和元年度	1人	0人	0人	0人
				高専免（英語）	令和元年度			0人	
	応用社会学専攻	昭和39年度	5人	中専免（社会）	令和元年度	1人	0人	0人	0人
				高専免（地理歴史）	令和元年度			0人	
				高専免（公民）	令和元年度			0人	
	人間科学専攻	平成11年度	10人	中専免（社会）	令和元年度	0人	0人	0人	0人
高専免（公民）				令和元年度	0人				
自然科学研究科	物理学専攻	昭和39年度	12人	中専免（理科）	令和元年度	7人	0人	0人	0人
				高専免（理科）	令和元年度			0人	
	化学専攻	昭和39年度	12人	中専免（理科）	令和元年度	10人	0人	0人	0人
				高専免（理科）	令和元年度			0人	
	生物学専攻	昭和39年度	5人	中専免（理科）	令和元年度	4人	2人	2人	0人
				高専免（理科）	令和元年度			2人	
	知能情報学専攻	平成5年度	6人	中専免（数学）	令和元年度	5人	0人	0人	0人
				高専免（数学）	令和元年度			0人	
社会科学研究科	経済学専攻	昭和40年度	10人	中専免（社会）	令和元年度	4人	0人	0人	0人
				高専免（公民）	令和元年度			0人	
	経営学専攻	昭和40年度	10人	中専免（社会）	令和元年度	0人	0人	0人	0人
				高専免（公民）	令和元年度			0人	
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	平成21年度	15人	中専免（理科）	令和元年度	11人	0人	0人	0人
				高専免（理科）	令和元年度			0人	
入学定員合計			96人	合計		43人	2人	4人	人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>「研究科・専攻等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各専攻等の実人数、「個別」欄は各専攻等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年12月2日（金）

実地視察大学：甲南大学

## 【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように今後も努めていただきたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

- 「教科に関する専門的事項」の授業科目について、各学部・学科でも教職課程の充実について検討し、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の授業科目との連携を図り、より一層の充実に努めていただきたい。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の科目を担当する実務家教員のうち、担当授業科目に関する研究業績が充分にあるか判然としない教員が一部見られた。採用後も研究業績を積むように大学として指導していただきたい。
- 教職教育センターについて、教職課程の全学的なマネジメントだけでなく、各学部・学科の教職課程の質を確保及び向上できるよう、各学部・学科との有機的な連携及び学内での位置づけを検討すること。

## 3. 教育実習の取組状況

- 教育実習に対する各学部・学科の理解が得られることを期待し、各学部・学科の教員が巡回指導を行っている点は評価できる。今後は各学部・学科と教職教育センターの教員の連携をより深めることで、教育実習のより一層の充実を図っていただきたい。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職教育センターに教職教育センター共同研究・実習室（KTL）や教職教育センターコモンズ（KTC）を設置し、デジタル教科書の活用方法など、校長経験者等の教職指導員による学生への実践的かつきめ細やかな指導が行われている点について、評価できる。
- 学生に指導ができるよう実務家教員にも ICT に関する指導を行っている点は評価できる。
- 履修カルテについて、ルーブリックの導入や指標の具体化など、学生が自分自身の強みや弱みに気づき、今後の課題がより明確になるよう、一層の充実に努めていただきたい。

#### 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 学校ボランティアの早期化等により、教員を志望する学生を早期から確保できるよう取り組んでいる点は評価できる。引き続き、教職科目の前倒しなど教員を志望する学生を確保できるよう、学内で検討していただきたい。

#### 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 学生が中学校及び高校の教科書に掲載している実験を模擬授業の演習で行えるよう、理科教育実習室の備品・物品等の設備が充実している点は評価できる。
- ICT 活用について、学生が教員になった際に児童生徒に ICT 活用を促せるような教育課程及び施設・設備の一層の充実に努めていただきたい。

#### 7. その他特記事項

- 神戸親和女子大学の通信教育部で科目等履修生として小学校教諭一種免許状を取得する「小学校教諭一種免許状取得プログラム」の学生に対しても教職教育センターによる手厚い指導がなされている点は評価できる。
- 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織にも記載のとおり、大学全体で教員養成を推進する際に、教職教育センターの役割を明確化し、各学部・学科との連携を図りながら教職課程のより一層の充実に努めていただきたい。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		桃山学院教育大学（学部・学科等の課程）		設置者名		学校法人 桃山学院			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
人間教育学部	人間教育学科	平成26年度	270人	幼一種免	平成26年度（令和元年）	164人	38人	125人	71人
				小一種免	平成26年度（令和元年）		60人		
				中一種免（国語）	令和3年度		-		
				高一種免（国語）	令和3年度		-		
				中一種免（英語）	令和3年度		-		
				高一種免（英語）	令和3年度		-		
				中一種免（保健体育）	平成26年度（令和元年）		34人		
				高一種免（保健体育）	平成26年度（令和元年）		34人		
				養教一種免	令和28年度（令和元年度）		10人		
				特支一種免（知・肢・病）	平成26年度		23人		
入学定員合計			270人	合計		164人	199人	125人	71人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								



## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年12月8日（木）

実地視察大学：桃山学院教育大学（オンライン）

### 【全般的事項】

○ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、一部是正すべき点があるものの全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。

### 【個別事項】

#### 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○ 教育活動の目標に「人間力と実践力を備えた教員の養成」を挙げているが、その目標を明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、引き続き努めてもらいたい。

#### 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○ 「教科に関する専門的事項」に関する授業科目と「各教科の指導法」に関する授業科目との線引きが曖昧で、「各教科の指導法」で扱うべき内容が「教科に関する専門的事項」で取り扱われている授業科目が散見された。それぞれ区別を明確にした上で、「教科に関する専門的事項」に関する授業科目は学生の知識を高めるものに、「各教科の指導法」に関する授業科目は教職課程コアカリキュラムを踏まえたものとなるよう検討すること。

○ 実務家教員を多く配置し教職指導等に様々取り組んでいることがうかがえたが、一方で、教職課程に携わる上での専門性の向上も重要である。実務家教員のアカデミックスキル向上のため、引き続き大学としての組織的な支援を継続していただきたい。

#### 3. 教育実習の取組状況

○ 学校インターンシップ等を含め、段階を踏まえた教育実習等の体系が整備されており、学生への支援体制が充実していることが確認できた。

○ 教育実習の実施に加えてリフレクションにも注力している点が評価できる。引き続き丁寧な支援を継続していただきたい。

#### 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○ チューター制度及び少人数教育を活用し、一人一人の学生に丁寧に指導している状況が確認できた。

○ 履修カルテの活用等が効果的になされていることが確認できた。

○ 「チーム桃教」として全学的な体制で教職指導等に取り組んでおり、これらによ

る関係性の構築等の成果がうかがえた。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 学校インターンシップ等の実施にあたり、近隣の教育委員会との連携体制が構築されていることが確認できた。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備については、十分に整備されている状況が確認できた。図書については、今後も教職課程での教育・研究に資するようさらなる充実に努めていただきたい。

7. その他特記事項

- ICT 活用について、デジタル教科書の授業内での活用も含めて対応していることが確認できた。今後もさらなる充実に努めていただきたい。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	名寄市立大学（学部・学科等の課程）			設置者名	名寄市				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
保健福祉学部	栄養学科	平成18年度	40人	栄教一種免	平成18年度	40人	9人	9人	5人
	社会福祉学科	平成18年度	50人	高一種免（公民）	平成18年度	53人	7人	7人	3人
				高一種免（福祉）	平成18年度			6人	
				特支一種免（知・肢・病）	平成18年度			4人	
	社会保育学科	平成28年度	50人	幼一種免	平成28年度	47人	47人	47人	11人
				特支一種免（知・肢・病）	平成28年度			33人	
入学定員合計			140人	合計		140人	63人	106人	19人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年12月12日（月）オンライン

実地視察大学：名寄市立大学

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。今後は学科内だけでなく、大学として学科間で連携・協力する体制を充実させ、引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教育活動の目標に「ケアの視点をもった教員養成」を挙げているが、その目標を明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めてもらいたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

- シラバスにおいて、実際には必要事項を扱っていることが確認できたが、教職課程コアカリキュラムを満たしているかが判然としないものが見受けられた。また、見学した授業も教育職員免許法施行規則に規定する事項を踏まえたものになっているか判然としなかった。シラバスや授業について担当教員に任せるのではなく、全学的なチェック体制を確立することが望ましい。
- 学生が卒業後に教育現場で対応できるよう、アクティブラーニングを積極的に取り入れた講義になるよう改善を検討すること。
- 教職課程を担当する教員の業績の確認を採用時にのみ実施しており、また、教職課程に関するFD研修は実施していないとのことだが、教職課程を担当する教員に求められる内容は絶えず変化するため、教員が継続して研究業績を積んでいるかを確認する仕組みの構築や教職課程に関するFD研修の実施等、教員の質向上に向けた対応を検討すること。

## 3. 教育実習の取組状況

- 現場体験活動等を数多く取入れており、学生の実践経験は蓄積されているように見受けられた。ただ、それぞれの実践経験が体系化していないため、学生が実践知を修得していないように見受けられた。実践知となるようそれぞれの現場体験活動の狙いを明らかにするよう検討すること。併せて、学内の授業で修得した理論知とのつながりを意識したカリキュラムとなるよう検討すること。
- 学生の経済的な負担軽減のため、教育実習にかかる交通費等を補助している点は評価できる。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 課程認定を有する各学科でそれぞれ教職指導をしているが、学科間で連携可能な部分がないかを検討していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 近隣の教育委員会と小中学校の学習支援活動、及び近隣の高校と高大連携事業を実施している点は評価できる。これらの活動を継続するとともに、こういった事業にも学生が学校現場を経験する機会を確保できるよう努めていただきたい。
- 近隣の大学との連携について検討していただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- ICT 機器の整備が充分でないように見受けられる。学生が教員となり授業を実施する際には ICT スキルが求められることから、大学においても ICT を活用した授業が実施できるよう、環境整備に努めていただきたい。
- 学生数に対して教科書の蔵書が充分でないように見受けられるため、複数の出版社の教科書を揃える等、図書の充実に努めていただきたい。

7. その他特記事項

- 各学科における学生指導等は丁寧に行われているが、養成したい教員像が学科間で共有されていないように見受けられた。大学としてどのような教員を養成するのか、そのためにどのような教職科目を設けるかを今一度整理していただきたい。まずは各学科内で養成したい教員像について意思統一を図ること。また、教職課程全体的内容を把握できる学内組織の整備を検討の上、さらなる充実に努めていただきたい。

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	梅光学院大学（学部・学科等の課程）			設置者名	学校法人 梅光学院				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
子ども学部	子ども未来	平成16年度	100人	幼一種免	令和元年度	94人	81人	39人	53人
				小一種免	令和元年度			49人	
文学部	人文	平成27	210人	中一種免(国語)	令和元年度	186人	6人	6人	8人
				高一種免(国語)	令和元年度			6人	
				高一種免(書道)	令和元年度			4人	
				中一種免(英語)	令和元年度			6人	
				高一種免(英語)	令和元年度			6人	
入学定員合計			310人	合計		280人	93人	116人	61人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

实地視察日：令和5年1月23日（月）

实地視察大学：梅光学院大学

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等について全般的に基準は満たしているものの、改善が求められる点がいくつかあった。今後、必要な措置を講じ、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○大学としての教員養成に対する理念・構想がはっきりと示されていないので明確化すること。また、その理念を具体化・具現化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるよう一層努めること。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○貴学が2024年度に予定しているカリキュラムの見直しについて、学生のニーズを踏まえつつも、大学としてのカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに沿ったものとなるよう検討すること。

○シラバスについて、コアカリキュラムの各目標に対応しているようであるが、そのことが明確となるよう、記載内容や記載方法を見直すこと。

○大学教員の研究と学生への指導は両輪の関係であるため、大学教員が研究に従事できるよう学内の整備について引き続き検討すること。

○新たに大学教員を採用する際は、当該教員の研究業績が、その授業科目を担当することに適切かどうか学内で判断した上で行うこと。

○教員のFDについては、オンライン授業の方法等について各教員が発表し、意見交換しているということが確認できたが、中教審の動きや教育の最新の情報等について定期的に学内で共有できるよう、FDの内容の充実を図ること。

## 3. 教育実習の取組状況

○教育実習について、近隣県を中心に大学教員が実習園（校）に訪問指導していることが確認できた。学生に対して一層のきめ細やかな指導や実習のサポートができるよう検討すること。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○チューター制度及び履修カルテの電子化により、網目の細かい履修指導を行っていることが確認できた。

○卒業後の学生のフォローや追跡調査等について今後検討していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会とは、教育実習をはじめ、学校インターンシップ等を通じ、積極的な交流が行われていることが確認できた。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○小学校の教科に関する専門的事項に係る図書が非常に少ないため、充実を検討していただきたい。その際、教職課程の観点から質的充実も図ること。

○クロスライトでは構造上活発なアクティブ・ラーニングが期待できるが、学生が教師になった際もアクティブ・ラーニングを取り入れた授業ができるように、施設の一層の有効活用を検討すること。またアクティブ・ラーニングにとどまらずクロスライトの特性を最大限生かした授業方法についても併せて検討することが望ましい。

7. その他特記事項

○2024年度からの新カリキュラムに向けて、現行の問題点や課題点を洗い出すだけでなく中教審等教育に関する動向を把握し、学校現場で求められている教員を養成できるよう学内で十分に検討し、常に改善を図っていただきたい。



実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		山口大学（学部・学科等の課程）		設置者名	国立大学法人山口大学				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
人文学部	人文学科	平成28年度	185人	中一種免（国語）	平成28年度	191人	34人	4人	9人
				中一種免（社会）	平成28年度			9人	
				中一種免（英語）	平成28年度			4人	
				高一種免（国語）	平成28年度			9人	
				高一種免（地理歴史）	平成28年度			13人	
				高一種免（公民）	平成28年度			9人	
				高一種免（英語）	平成28年度			9人	
教育学部	学校教育教員養成課程	平成10年度	180人	幼一種免	平成10年度	192人	191人	26人	115人
				小一種免	平成10年度			117人	
				中一種免（国語）	平成10年度			20人	
				中一種免（社会）	平成10年度			20人	
				中一種免（数学）	平成10年度			20人	
				中一種免（理科）	平成10年度			13人	
				中一種免（音楽）	平成10年度			7人	
				中一種免（美術）	平成10年度			7人	
				中一種免（保健体育）	平成10年度			10人	
				中一種免（技術）	平成10年度			10人	
				中一種免（家庭）	平成10年度			10人	
				中一種免（英語）	平成10年度			29人	
				高一種免（国語）	平成10年度			17人	
				高一種免（地理歴史）	平成10年度			10人	
				高一種免（公民）	平成10年度			7人	
				高一種免（数学）	平成10年度			20人	
				高一種免（理科）	平成10年度			13人	
				高一種免（音楽）	平成10年度			7人	
				高一種免（美術）	平成10年度			5人	
				高一種免（保健体育）	平成10年度			10人	
				高一種免（家庭）	平成10年度			6人	
				高一種免（情報）	平成10年度			9人	
				高一種免（英語）	平成10年度			26人	
特支一種免（知・肢・病）	平成19年度	51人							
経済学部	経済学科	昭和24年度	130人	高一種免（公民）	平成3年度	131人	1人	1人	1人
	経営学科	昭和24年度	165人	高一種免（商業）	平成2年度	160人	3人	3人	2人

理学部	数理科学科	平成7年	50人	中一種免（数学）	平成7年度	43人	22人	17人	10人
				高一種免（数学）	平成7年度			22人	
	物理・情報科学科	平成18年度	60人	中一種免（理科）	平成18年度	57人	14人	2人	4人
				高一種免（理科）	平成18年度			13人	
				高一種免（情報）	平成18年度			1人	
	化学科	令和3年度	40人	中一種免（理科）	令和3年度	—	—	—	—
				高一種免（理科）	令和3年度			—	
	生物学科	令和3年度	40人	中一種免（理科）	令和3年度	—	—	—	—
				高一種免（理科）	令和3年度			—	
	地球圏システム科学科	平成18年度	30人	中一種免（理科）	平成18年度	26人	8人	3人	0人
高一種免（理科）				平成18年度	8人				
工学部	機械工学科	平成19年度	90人	高一種免（工業）	平成2年度	98人	2人	2人	0人
	社会建設工学科	平成19年度	80人	高一種免（工業）	平成2年度	86人	0人	0人	0人
	応用化学科	平成19年度	90人	高一種免（工業）	平成12年度	79人	0人	0人	0人
	電気電子工学科	平成19年度	80人	高一種免（工業）	平成2年度	82人	0人	0人	0人
	知能情報工学科	平成19年度	80人	高一種免（情報）	平成13年度	87人	1人	1人	0人
	循環環境工学科	平成19年度	55人	高一種免（工業）	平成19年度	57人	0人	0人	0人
農学部	生物資源環境科学科	平成13年度	50人	高一種免（農業）	平成13年度	50人	4人	4人	1人
入学定員合計			1,405人	合計		1,339人	280人	604人	142人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		山口大学大学院（研究科・専攻等の課程）		設置者名	国立大学法人山口大学									
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）								
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	修了者数	免許状取得者数		教員就職者数					
							実数	個別						
人文科学研究科	人文科学専攻	平成28年度	8人	中専免（国語）	平成28年度	4人	1人	0人	0人					
				中専免（社会）	平成28年度			0人						
				中専免（英語）	平成28年度			1人						
				高専免（国語）	平成28年度			0人						
				高専免（地理歴史）	平成28年度			0人						
				高専免（公民）	平成28年度			0人						
				高専免（英語）	平成28年度			1人						
				高専免（英語）	平成28年度			1人						
学校臨床心理学専攻	令和元年度	7人	幼専免	令和元年度	7人	6人	5人	1人						
			小専免	令和元年度			1人							
			中専免（国語）	令和元年度			0人							
			中専免（社会）	令和元年度			1人							
			中専免（数学）	令和元年度			0人							
			中専免（理科）	令和元年度			0人							
			中専免（音楽）	令和元年度			0人							
			中専免（美術）	令和元年度			0人							
			中専免（保健体育）	令和元年度			0人							
			中専免（技術）	令和元年度			0人							
			中専免（家庭）	令和元年度			0人							
			中専免（英語）	令和元年度			1人							
			高専免（国語）	令和元年度			0人							
			高専免（地理歴史）	令和元年度			0人							
			高専免（公民）	令和元年度			1人							
			高専免（数学）	令和元年度			0人							
			高専免（理科）	令和元年度			0人							
			高専免（音楽）	令和元年度			0人							
			高専免（美術）	令和元年度			0人							
			高専免（保健体育）	令和元年度			0人							
			高専免（家庭）	令和元年度			0人							
			高専免（情報）	令和元年度			2人							
			高専免（英語）	令和元年度			0人							
			学校臨床心理学専攻	令和元年度			7人		幼専免	令和元年度	7人	6人	10人	1人
									小専免	令和元年度			2人	
									中専免（国語）	令和元年度			1人	
									中専免（社会）	令和元年度			4人	
									中専免（数学）	令和元年度			4人	
中専免（理科）	令和元年度	0人												
中専免（音楽）	令和元年度	1人												
中専免（美術）	令和元年度	0人												

教育学研究科	教職実践高度化専攻	令和元年度	28人	中専免（保健体育）	令和元年度			0人	10人
				中専免（保健）	令和元年度			0人	
				中専免（技術）	令和元年度			0人	
				中専免（家庭）	令和元年度			0人	
				中専免（職業）	令和元年度			0人	
				中専免（職業指導）	令和元年度			3人	
				中専免（英語）	令和元年度			0人	
				中専免（ドイツ語）	令和元年度			0人	
				中専免（フランス語）	令和元年度			0人	
				中専免（宗教）	令和元年度			2人	
				高専免（国語）	令和元年度			1人	
				高専免（地理歴史）	令和元年度			0人	
				高専免（公民）	令和元年度			4人	
				高専免（数学）	令和元年度			4人	
				高専免（理科）	令和元年度			0人	
				高専免（音楽）	令和元年度			1人	
				高専免（美術）	令和元年度			0人	
				高専免（工芸）	令和元年度			0人	
				高専免（書道）	令和元年度			0人	
				高専免（保健体育）	令和元年度			0人	
				高専免（保健）	令和元年度			0人	
				高専免（看護）	令和元年度			0人	
				高専免（家庭）	令和元年度			2人	
				高専免（情報）	令和元年度			0人	
				高専免（農業）	令和元年度			0人	
				高専免（工業）	令和元年度			0人	
				高専免（商業）	令和元年度			0人	
				高専免（水産）	令和元年度			0人	
				高専免（福祉）	令和元年度			0人	
				高専免（商船）	令和元年度			0人	
				高専免（職業指導）	令和元年度			2人	
				高専免（英語）	令和元年度			0人	
				高専免（ドイツ語）	令和元年度			0人	
高専免（フランス語）	令和元年度			0人					
高専免（中国語）	令和元年度			0人					
高専免（韓国・朝鮮語）	令和元年度			0人					
高専免（宗教）	令和元年度			3人					
特支専免（知・肢・病）	令和元年度			2人					
養教専免	令和元年度			0人					
栄教専免	令和元年度			0人					
経済学研究科	経済学専攻	昭和50年度	16人	高専免（公民）	平成6年度	5人	0人	0人	0人
	企業経営専攻	平成7年度	10人	高専免（商業）	平成7年度	5人	0人	0人	0人
創成科学研究科	基盤科学系専攻	平成28年度	38人	中専免（数学）	平成28年度	35人	6人	3人	3人
				中専免（理科）	平成28年度			1人	
				高専免（数学）	平成28年度			4人	
				高専免（理科）	平成28年度			2人	
	地球圏生命物質科学系専攻	平成28年度	42人	中専免（理科）	平成28年度	46人	3人	3人	1人
				高専免（理科）	平成28年度			3人	
	農学系専攻	平成28年度	36人	高専免（農業）	平成28年度	35人	1人	1人	0人
入学定員合計			185人	合計		155人	35人	76人	15人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</li> </ul>								

## 教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和5年1月24日（火）

実地視察大学：山口大学

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教職課程や教員組織がより一層充実したものとなるように今後も努めていただきたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○シラバスについて、コアカリキュラムの各目標に対応しているようであるが、そのことが明確となるよう、記載内容や記載方法を見直すこと。  
○教職センターを含めた全学でFDが行われていることが確認できた。今後も引き続き、中教審の動向や教育の最新の情報等など教育に関する動きを学内で共有できるように検討していただきたい。

## 3. 教育実習の取組状況

○幅広く体系的な実習が行われ、4年間の学びの中で十分に精査された学びの機会が提供されている点は評価できる。今後はその知見をさらに理論と実践の往還に活用できるように検討していただきたい。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○履修カルテについて、学生自身が自分の強みや弱み分かるような科目ごとの振り返りが少ないように見受けられた。学生との相談がより円滑になるよう、電子化も含めた履修カルテの在り方を引き続き検討していただきたい。

## 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会との人事交流や意見交換を行う機会が多く、教育委員会との連携が綿密に行われていた。学内の取組である「ちゃぶ台プログラム」が山口県教育委員会も広報しており、非常に強い連携が見受けられた。  
○学生の学びをサポートする幅広い経歴・年代の教員が参画している点が確認できた。

○地域の総合大学として FD の発信など山口県内の大学とより一層の連携が図られるように検討していただきたい。

#### 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○図書館について学生が参加できる運営がなされており、学生の主体性を育む機会となっていた。

○ちゃぶ台相談室といったユニークな施設があり、学生相談室に置かれた人材は学内で十分に検討の上で配置されている。特に「ちゃぶ台プログラム」は事業が始まって10年以上経つが、当時の理念を尊重しつつ常に改善されながら運営されている点は評価できる。

#### 7. その他特記事項

○学内全体で「失敗しても構わない」という雰囲気作りが行われており、学生の人間的な育ちに手厚さを感じられた。引き続きその雰囲気を保ちながら、県内で活躍する教員の養成に取り組んでいただきたい。

○Google との共同プロジェクトや情報教育コースの更なる充実により、ICTに強い教員を輩出できるよう引き続き取り組んでいただきたい。